

2019年3月までに当院（血液内科）を受診して検体残余の研究利用の同意をいただいた患者さん、もしくはご家族の皆様へ

当研究室では、医学系倫理審査委員会の承認のもとに、下記のような血液腫瘍に関する研究を行っています。これらの研究は、当院（血液内科）で診療を受け、検査を終了した血液などの検体の残余の研究利用についての同意をいただいた患者さん（結果として血液腫瘍ではなかった患者さんを含みます）を対象としています。

この研究結果の検証などの目的で、過去に検体残余の研究利用の同意をいただいて、当研究室に保管してある検体を使用することがあります。検体の情報として、疾患名とその病型、病期、血液や骨髄での腫瘍細胞の比率、投与された抗腫瘍薬名を用いることがあります。検体は匿名化されており、個人を特定できるような情報が公表されることはありません。同意の撤回も可能です。ご質問がありましたら、研究の実施責任者にお問い合わせください。

研究責任者：東京科学大学 臨床検査医学分野 佐々木 宏治
〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
メール：sasaki.mlab@tmd.ac.jp
電話： 03-5803-5334（ダイヤルイン）（平日 8:30～17:30）

利益相反：学会発表や論文の公表にあたっては、試薬と資金の供与について公表し、研究の透明化を図ってまいります。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。研究テーマ1で小野薬品工業株式会社から効果の解析を依頼された化学物質については、その化学物質と研究費を供与されますが、解析結果が同社に有利になることがないように運用されております。なお、小野薬品工業株式会社との受託研究は2021年2月に終了しています。

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われらないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

苦情窓口：東京科学大学研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）

研究テーマ 1 「血液腫瘍の細胞増殖の仕組みの解明と薬剤感受性検査の開発」

承認番号：M2000-818

研究期間：研究実施許可日～2031 年 3 月 31 日まで

白血病やリンパ腫などの血液腫瘍の診断法や治療法は、年々進歩していますが、まだ十分ではありません。治癒率を高めるには、腫瘍細胞がどのような仕組みで増えるのかを理解し、腫瘍細胞の個性を調べ、それに応じた治療法を開発する必要があります。私たちは患者さんの腫瘍細胞を培養することなどによって、細胞が増える仕組みを研究しています。

抗腫瘍薬の効果は、同じ病気であっても、患者さんによって差があり、投与前に有効性を予測することは困難です。薬剤感受性検査とは患者さんの血液から集めた腫瘍細胞に、試験管などの中で薬をふりかけて培養し、効果を調べます。現在では的確に予測できる検査法は確立していませんが、より正確に予測できる検査法が開発されれば、効果を期待できる薬を選んで投与することが将来は可能になります。そのための研究を行っています。

研究テーマ 2 「血液腫瘍の新たな遺伝子検査法の開発」

承認番号：M2000-824

研究期間：研究実施許可日～2031 年 3 月 31 日まで

白血病、骨髄異形成症候群、多血症などの血液腫瘍は、血液や骨髄液の標本の顕微鏡での観察などで診断されますが、診断確定が困難なこともあります。そのような場合には遺伝子検査が有用です。遺伝子検査は診断だけでなく、より有用な治療法の選択や、治療後にわずかに残っている腫瘍細胞を検出にも有用です。しかし、遺伝子検査は健康保険が適用される項目が限られています。

私たちは、診断には重要だが、標準的な検査法が確立していない遺伝子異常に

対する遺伝子検査法の開発の研究をしています。私たちはこれまでに、細胞株などを用いて遺伝子検査法の研究をしてきました。こうした検査法が患者さんの細胞でも有用か、よりよい検査法はないか、などを検討しています。なお、遺伝子検査といいましても、親子間に遺伝する病気や個人の生まれつきの性質を調べる検査ではなく、腫瘍細胞に生じた変化を検出する検査です。

なお、この遺伝子異常の働きを確かめるため、対応する細胞蛋白質を調べたり、細胞を培養することもあります。